

令和4年度自己評価表

鳥取県立米子白鳳高等学校

|                   |                                                                          |              |                                                                          |
|-------------------|--------------------------------------------------------------------------|--------------|--------------------------------------------------------------------------|
| 中長期目標<br>(学校ビジョン) | 多様な背景を持つ生徒に「学ぶ意欲」を育て、「優しさ感謝」の心を育み、「自分も役に立ちたい」と前向きに共生する資質と自立のための能力・態度を育む。 | 今年度の<br>重点目標 | 1 学ぶ意欲の喚起・育成<br>2 心豊かに他と共生する態度の育成<br>3 「ふるさと」とつながる心の育成<br>4 社会的な自立に向けた支援 |
|-------------------|--------------------------------------------------------------------------|--------------|--------------------------------------------------------------------------|

| 年 度 当 初           |                             |                                                      |                                                                         |                                                                                                                                   | 評 価 結 果 ( )月 |    |      |           |
|-------------------|-----------------------------|------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|----|------|-----------|
| 評価項目              | 評価の具体項目                     | 現状                                                   | 目標(年度末の目指す姿)                                                            | 目標達成のための方策                                                                                                                        | 経過・達成状況      | 評価 | 改善方策 |           |
| 1 学ぶ意欲の喚起・育成      | ○授業のユニバーサルデザイン化             | ○「分かる」を大切にしながら主体的に授業に取り組む態度を育てることが必要である。             | ○学習に集中し、意欲的に授業に参加することができる。<br>○単位修得率70%以上                               | ○全職員による生徒情報の共有<br>○全ての教員によるユニバーサルデザイン研修・合理的配慮の視点を取り入れた授業の展開<br>○支援が必要な生徒への個別指導                                                    |              |    |      | 教務・（教育相談） |
|                   | ○ICT活用教育の推進                 | ○世の中のICTの普及と利便性より、情報活用能力の育成が必要である。                   | ○各自の課題の解決に向け、主体的にICTの活用ができる。<br>○ICT機器に抵抗感のない生徒70%以上                    | ○ICTの活用のための教員研修と環境整備<br>○ICTを活用した教材の充実<br>○ICTを利用した授業実践<br>○NHK高校講座でのICT活用                                                        |              |    |      | 教務        |
|                   | ○生徒理解と環境整備                  | ○生徒のおかれた状況を理解し、学ぶ意欲を高める必要がある。                        | ○安心して学校生活に取り組むことができる。                                                   | ○個人面談・Hyper-QUIの実施による生徒理解と個別支援の充実<br>○SC・SSW・特別支援教育支援員・白鳳サポーターとの連携<br>○通信制就学支援事業（学校内託児）の推進<br>○「通級による指導」で学んだことを通常の学級で活かす校内支援体制の推進 |              |    |      | 教育相談      |
| 2 心豊かに他と共生する態度の育成 | ○基本的生活習慣の確立                 | ○挨拶、言葉遣いなど基本的生活習慣を身につける取組が必要である。                     | ○すすんで挨拶をし、社会人として必要な言葉遣いができる。                                            | ○遅刻・欠席の防止指導<br>○積極的な挨拶・声かけ<br>○社会人としてのマナー指導<br>○健康を意識した体調管理指導の推進                                                                  |              |    |      | 生徒        |
|                   | ○自己理解・他者理解の促進               | ○人間関係力の育成をする環境づくりが継続的に必要である。                         | ○生徒同士の信頼関係が醸成され、お互い尊重し合ってクラスが居心地の良い場となる。<br>○学校が楽しいと感じる生徒80%以上          | ○生徒理解のための教員研修の実施と充実<br>○エンカウターの実施<br>○性に関する指導や人権教育の充実                                                                             |              |    |      | 教育相談      |
|                   | ○個に応じた指導と集団の活性化             | ○人との関わり方やコミュニケーションを特に苦手とする生徒がいる。                     | ○対象となる生徒が自分自身を認めながら自分について理解し、自らの課題に適切に対応していくことができるようになる。                | ○生徒ひとりひとりの課題に応じたきめ細かい指導<br>○自主性を活かした部活動の運営<br>○執行部活動の充実                                                                           |              |    |      | 生徒        |
| 3 「ふるさと」とつながる心の育成 | ○ふるさとキャリア教育の充実              | ○社会の変化に対応するため、進路意識を早期に向上させる必要がある。                    | ○自分自身の適性・特徴にあった進路実現を達成することができる。<br>○自分の適性、就きたい職業について考えるようになった生徒の割合70%以上 | ○就職・進学講演会の開催<br>○個別面談や相談の実施<br>○学年団・就職支援相談員と連携した進路指導<br>○アルバイト・インターンシップを通じた勤労観の育成                                                 |              |    |      | 進路        |
|                   | ○「産業社会と人間」「総合的な探究・学習の時間」の充実 | ○社会的自立に向けて、さらに系統的な学習の確立が必要である。                       | ○社会的自立に必要なスキルが、学年に応じて身についている。                                           | ○系統的な学習プログラムの構築<br>○学習成果発表会の実施<br>○面接・着こなし講習会の実施                                                                                  |              |    |      | 教務        |
|                   | ○関係機関との連携                   | ○支援が必要と思われる生徒について、関係機関との連携が必要である。                    | ○自分が必要な進路相談および対策や準備ができ、進路実現を図ることができる。                                   | ○上級学校・事業所見学の実施<br>○ハローワーク、若者サポートステーション、障害者就業・生活支援センターとの連携                                                                         |              |    |      | 進路        |
| 4 社会的な自立に向けた支援    | ○体験活動をととした社会性の育成と自己有用感の醸成   | ○社会的体験を積み重ね、さらに社会性を高める必要がある。                         | ○自らすすんで行動し自信と責任を持って活動することができる。<br>○「自信がついた活動があった」と感じる生徒の割合70%以上         | ○定通充実事業（チャレンジもののづくり体験・テーブルマナー講習・乗馬体験・校外研修・蔵書点検ボランティア）および実習を通した達成感の習得に向けた取組の推進<br>○アルバイト、ボランティア活動、地域美化活動の推進                        |              |    |      | 教務        |
|                   | ○地域との交流と協働                  | ○地域との交流をととし、地域社会や周りの環境に対する関心をさらに高める必要がある。            | ○地域社会や環境に関心をもち、異世代とのコミュニケーションができる。<br>○淀江地区との交流に積極的に参加した生徒の割合80%以上      | ○さつまいもの植付・収穫・会食を通した園児との交流<br>○コミュニティ・スクールによる意見・提言の活用<br>○淀江地区との交流を通したふるさとの特徴理解（銭太鼓・傘踊り体験、和傘作り、ヒガンバナの植栽活動、淀江さんこ節保存会）               |              |    |      | 教務        |
|                   | ○自己表現力の育成                   | ○自分の思いや考えをうまく相手に伝えることができないため、相手に誤解を与える、誤解してしまうことがある。 | ○周囲の状況に配慮した発言・行動が出来る。                                                   | ○協働学習の推進<br>○発表する・発表を聞くときの意識・姿勢の指導<br>○一斉読書を活用した読書指導の充実                                                                           |              |    |      | 進路        |
| 5 学校業務改善に向けての取組   | ○長時間勤務の解消                   | ○学校行事などにより長時間勤務になる時期がある。                             | ○月45時間、年360時間を超える時間外業務がない。                                              | ○衛生委員会での時間外労働時間集計結果の周知と超勤者への声かけ<br>○定時退勤日・定時退勤週の実施                                                                                |              |    |      | 衛生委員会     |
|                   | ○働く上で効率のよい職場環境づくり           | ○職員室など整理が必要なおとももある。共有フォルダもデータが整理・整頓がいきとどいていない。       | ○快適な職場環境で業務が効率的にできる。                                                    | ○校内安全点検の実施と破損箇所等の迅速な改善<br>○教職員の整理・整頓意識の啓発<br>○共有フォルダの整理<br>○職場環境での感染予防対策の徹底                                                       |              |    |      | 衛生・事務     |

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：変化の兆し D：まだ不十分 E：目標・方策の見直し

〔100%〕〔80%程度〕〔60%程度〕〔40%程度〕〔30%以下〕